

課題5 生物多様性保全と活用に関する生物環境科学的総合研究

今日、地球的規模での生物多様性保全を視野に入れた一層の環境整備の推進方策の検討や生態系サービスに係わる普及啓発が急務となっている。しかしながら、その整備推進等にあたっては今後検討すべき課題も多い。本研究は、2010年度から設けた課題であり、従前からのCNESにおける研究を継続しつつ、本学部が有する谷戸地形、雑木林、牧場、農場などを含む約50haの立地特性を生かした生物多様性保全と活用に関する探究を通して、教育現場としての持続的なエコロジカルキャンパスの実現、生物環境科学研究のさらなる発展・展開、生物多様性・低炭素型・循環型社会の創造への寄与を目指している。

参画する学生や大学院生は、研究者(教員)と一緒に環境実態調査、動植物生態調査、集積した環境データの解析や具体的な環境整備への参加を通して生物多様性保全に係わる知識や技術の修得を図り、将来に渡り、自主的に地域環境の創造に係わるコーディネータとして活躍する人材として成長することを目指している。

課題5の主な内容

①生物多様性の実態把握・保全方策

- ・動・植物の生息・生育実態の把握
- ・動植物相、稀少動植物の把握
- ・生態系構造の把握
- ・動植物モニタリング、評価手法、生物多様性保全方策の検討



②生物多様性の機能解析・評価

- ・物質循環、窒素循環系の生物システムの解明
- ・生物多様性に適する温熱環境システムの開発
- ・環境負荷物質の浄化システムの開発
- ・生物多様性に係わるモニタリング・定量的評価手法の開発



③生物多様性の利・活用

- ・環境変化に対するバイオ・インディケーター探索・発見、活用方法の検討、稀少植物の組織培養による生産種苗を用いた生態系回復技術の開発
- ・生物多様性の保全に係わる環境教育機会の創出
- ・湘南エコロジカルキャンパス整備計画の提案
- ・生物多様性ネットワーク化に係る推進組織の提案
- ・生態系サービスに係わる実態把握・保全方策の検討

